

『Mind Charging』

第 112 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 9 月 14 日

ベルナール・フントネルの名言



A great obstacle to happiness is to anticipate too great a happiness.

幸福にとっての大きな障害は、私たちにとってあまりにも

大きな幸福を期待することである。

このコラムでも『夢を大きく持つ』ことなどを述べていて、矛盾を感じる可能性もありながら今回の言葉を紹介しますが、この言葉から私は、『何も考えず(せず)』に過度に幸福を期待することは、幸福にとっての大きな障害となると受け止めました。時々、『何かいいことないかな・・・』と思いながら何もせずポーっと過ごしてしまうことはありませんか？少々強引かもしれませんが、『何もしなくても平和に過ごせる時間が時々あります』という環境という時点で幸せではないでしょうか。

世の中には私たちのように“当たり前”のようにいつでも水が飲めたり、いつでもご飯が食べられるという生活ができない環境の人々が大勢います。そんな人々からしたら、私たちの当たり前があれば他に何もいらぬと思うでしょう。この言葉には、『今を幸せに感じて努力を重ねられない人には、さらなる幸せはやってこない』というもう一つのメッセージが隠されているような気がします。現状に感謝し、さらに向上を目指して努力ができる環境に身を置いている私たちは、それだけでも幸せであり、多くのチャンスの中で生きていると自覚して過ごすべきではないでしょうか。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ベルナール・ル・ボヴィエ・ド・フントネル(Bernard le Bovier de Fontenelle、1657年2月11日 - 1757年1月9日)は、フランスの著述家である。多宇宙論の啓蒙書、『世界の多数性についての対話』が当時のヨーロッパ諸言語に訳され、知識階級に影響を与えた。アカデミー・フランセーズの会員。ルーアンに生まれた。父は法服貴族で、ルーアン高等法院付弁護士。母の2人の兄は有名な劇作家ピエール・コルネイユとマ・コルネイユであった。イエズス会のコレージュで学んだ後、父の職業を継いで弁護士になるが、裁判で1回弁護したのみで辞めてしまい、後世をデカルト主義的な立場にたつ哲学者・科学者として過ごした。(Wikipedia 参照)